

快適な駅前空間 ～明るい筑紫駅へ～

「はじめに」

多くの方は通勤、通学に電車を利用しています。それだけでなく、家族や友達と遊びに行くときに利用する人、誰かに会いに行くために利用する人など様々な人が電車を利用しています。電車を利用する人は、必ず駅を通過します。

駅は、電車に乗る人が通過するだけでなく、待ち合わせの場所に使われたり、バスへの乗り継ぎ、送り迎え、企業の宣伝に使われたりもしています。時には選挙の演説にも使われることもあります。このように、駅には「にぎわい」が自然に発生いたします。

私がよく利用する西鉄大牟田線の筑紫駅も例外ではなく、下表に示すように朝の通勤時間や夕方の帰宅時には多くの方が利用しています。

乗り降りだけで1日に約6,000の方が利用していることがわかります。しかし、駅には乗り降りだけではなく、利用者を送る人や迎える人も、来ますのでもっと多くの方が利用している印象を受けます。

でも写真は筑紫駅西口の駅前広場の写真ですが、周りには何もなくて閑散としています。



例えば、駅に到着し誰かの迎えを駅前のロータリーで待っているとき、迎えに来る人が到着予定の時間に遅れたとします。すると、それを待っている人は座るところもなく立って待っていなければなりません。そこで、雨などが降ってくると、もうパニックです。迎えに来る人と合うために、見える場所の立つことが必要になるし、せっかくなのにびしょびしょになるし、わくわく感が一瞬で絶望感に変わります。

旅行やお仕事、学校、部活などで疲れて帰ってきていてもそれは変わりません。家の方が迎えに来るのに、たったままでボーッとしている人の気持ちが、痛いほどよく分かります。また、疲れている人だけでなく、立っていることがきついお年寄りなどの方も、本当に辛そうです。

年度	1日平均乗降人員
----	----------

2009年	5,906
2010年	6,092
2011年	6,181
2012年	6,048

「快適な駅前空間について」

そこで私はその人たちが座って待てるようにロータリー付近にベンチや止まり木のような椅子など腰をおろせる施設を設ければいいと考えました。もしかなくなら、屋根もあつたらいいなと思います。

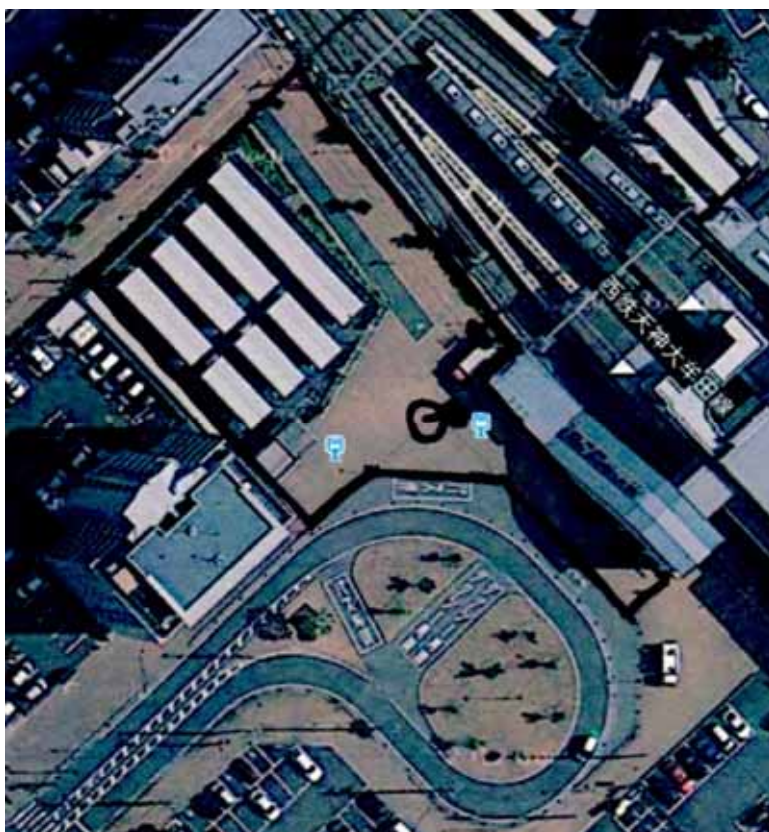
実は、筑紫駅には、駅の中には座って待っていられるところがありますが、駅の中で待っていると迎えに来る人が来ているのか分からず携帯電話や外を常に気にしていなければなりません。また、迎えに来る人も車から相手が見えないと、どこに停車していいか分からないようです。遠くにとめて、乗り込むのに時間がかかり他の車にも迷惑がかかることもあります。

ロータリー付近の見通しがいいところにベンチなどを設けて外で座って待ってられるようになると、迎えに来る人が来たことがすぐに分かり、とても楽になります。

また、ただベンチなどをおいただけでは寂しいので、木などの緑を植えてその周りをベンチで囲むと、コンクリートだらけの空間にやさしさが感じられるし、大きく育てば日陰もできて快適な空間になるようになると思います。

近くの駐輪場から駅に行くときに雨の日でも濡れないように屋根も付けるべきだと思います。その場合、せっかく今の駅前空間が陽当たりよく明るいのにコンクリートの屋根などを設けて全体が暗くなつては意味がありません。そこで、今の明るさを生かすために透明な屋根を設ければいいと思います。

そうすれば雨の日には濡れなくてすむし、晴れの日には明るい空間となりベンチもあつてもっと快適な空間になります。



上の図で黒く囲んだところに屋根をつけて、木やベンチを置くといいと思います。



「おわりに」

筑紫駅は小さな子供からお年寄りまで幅広い年齢の人が利用しているため、いろいろな人が使えるようなユニバーサルデザインを生かしたベンチを設置するのがいいと思います。

ベンチなどの腰を下ろせる施設があることで、駅前広場で待ち合わせをする人や雑談をする人が増え、いまよりもにぎわいのある快適な筑紫駅になるのではないかと思います。